

## 全国保健所管理栄養士会 令和元年度スキルアップ講座

### No.17 保健所管理栄養士を取り巻く最近の話題から～役割と関わり方実践編～

令和2年2月15日（土）東京家政学院大学において、令和元年度第2回スキルアップ講座を開催しました。今回も全国から多くの御参加をいただき、主催者一同心より厚く御礼申し上げます。

今回のスキルアップ講座では、前回に引き続き、「災害時の栄養管理」のテーマを中心に開催されました。

まず、新潟県の磯部さんから、令和元年10月～12月末までに全国の保健所に対して実施した災害時給食施設支援実態調査報告について報告がありました。管内給食施設に対して、災害時の備蓄状況について確認している保健所は96.6%で、備蓄状況を確認しておくことで災害時の支援の際に大いに参考になるという報告があり、平常時の備蓄状況の確認の重要性を改めて認識できました。

続いて、「大規模災害時の栄養・食生活支援活動に関するアクションカード」について、熊本県の久保さんから情報提供いただきました。災害時の栄養・食生活支援については、いざ災害が起こった後にどのような支援をするかは平常時に検討しておく必要があります。しかし、何から手を付けて良いかわからないことも多いですが、アクションカードはだれが何をすることがが詳細に例示されており、作成も容易になるものと感じました。

昼休みには、スキルアップ講座として初めての試みでランチョンセミナーが開催されました。講師は女子栄養大学の林先生で、「ナッジ」についてのお話をいただきました。ナッジは、「人々が自ら選択する自由を確保しながら、より良い選択ができるように手助けをすること」と定義されており、事例として都内の病院のコンビニにおいて、健康的な飲み物の配置を変えたり、カップラーメンの脇に食塩相当量を表示する等の取り組みにより、加糖飲料やカップラーメンの販売を減らし、逆にサラダや無糖飲料の売り上げを伸ばすことに成功したという興味深い事例も紹介いただきました。ランチョンセミナーではもったいないもっとお聞きしたい内容でした。

午後からは、女子栄養大学の武見先生を講師に、災害対応事例に係るケースメソッドを行いました。グループでケースを検討する形式で、2つの事例の良かった点と課題を話し合い、全体で討議を行いました。ケースメソッドを実施することで、多様な関係者の立場、多様な住民の思いを想定しながら、活動できるようにするスキルを身に付ける目的があります。ケースメソッドを通じて、ひとつの行動をとっても人によっては良いと感じたり課題と感じたりすることが多く、各グループでの演習や全体討議を通じて多様な考え方を学ぶことができたことは、良かったと感じました。

1日の講座を通じ、平常時に準備しておくべきことが明確になり、実りの多い研修会になったと感じております。お忙しい中御参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

次のスキルアップ講座は、来年度の7～8月頃に西日本を会場に開催予定ですので、ぜひお越しください。

【研修会の様子】

